

ほっとらいん
ふるむ
ほんごう

「看護に役立つ漢方医学 セミナー」開催

日本漢方生薬製剤協会の2011年の調査によると、漢方薬を処方している医師は89・0%^{*1}。2007年から全国80の医学部すべてで漢方医学の教育が行なわれており、漢方薬が使われる機会が今後さらに増える可能性がある。

しかし、看護師の基礎教育では、漢方薬や漢方医学（または和漢診療学。現代日本の漢方医学は、中国の伝統医学をもとにして、江戸時代を中心に日本で独自に成立したものであるため、このように呼ぶこともある）について学ぶ時間がほとんどなく、体系的に知識を得る機会は限られている。

そこで聖路加国際大学では、株式会社ツムラと共催で「看護に役立つ漢方医学セミナー」を4回シリーズで開催する。

去る9月4日に開催されたブレセミナーでは、西洋医学に漢方を取り入れて地域医療に取り組むがん認定医の今津嘉宏医師（愛門いまづクリニック）が漢方の基本的な考え方について解説。西洋医学という「ストレンス」によって引き起こされる、精神・栄養・体力面での障害は、

東洋医学では「気」の障害としてみることができるという。さらにPMSなど女性特有の症状を、漢方医学では「血の道症」と呼び、総合的に解決できる漢方薬があるため、ぜひ看護師自身も使ってみてほしいと呼びかけた。

後半の座談会では、聖路加国際大学の吉田千文教授と千葉大学医学部附属病院の小池潤看護師が今津医師とともに登壇し、看護師が漢方の知識をもてばケアの幅が広がることなどについて、フィジカルアセスメントや患者説明を例にとり意見を交わした。

本セミナーは1回ずつ参加することも可能で、12月5日（金）18時30分からの第4回は、今津嘉宏医師を講師に迎え「がんや認知症患者と漢方」をテーマに開催される（詳しくは986）。

文献

- *1 日本漢方生薬製剤協会：漢方薬処方実態調査（定量）報告書、2011。

訂正とお詫び

本誌バックナンバーにて、
以下の表記に誤りがありました。
訂正いたしますとともに、深くお詫び申し上げます。

- 19巻12号のp.986

「ほっとらいんふろむほんごう」下段中央

誤：山田千文教授

正：吉田千文教授

- 20巻1号のp.1の猪飼周平氏の役職

誤：一橋大学大学院社会学研究科准教授

正：一橋大学大学院社会学研究科教授